

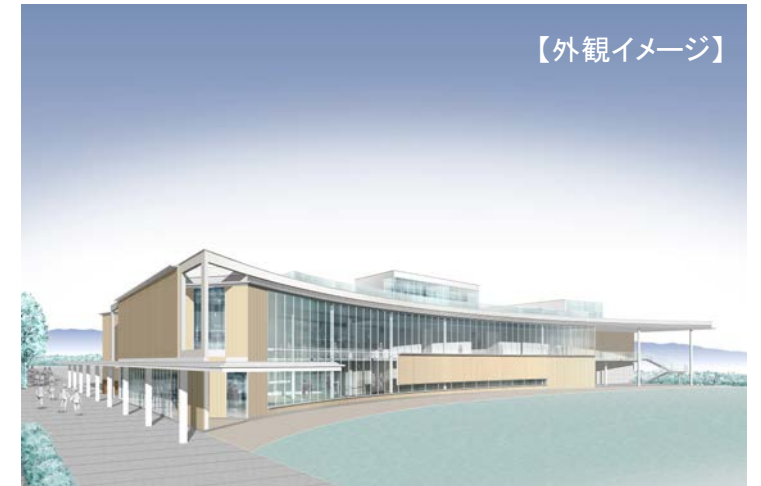
東日本大震災・原子力災害アーカイブ拠点施設の名称及び展示概要（案）について

1. 施設の名称（案）

名称（案）：『東日本大震災・原子力災害伝承館』

<名称選定の考え方>

- ・ 「未曾有の複合災害の記録と教訓を国や世代を超えて継承・発信する」という施設の事業目的を明確に示す名称であること。
- ・ 平易な日本語標記で、世代を問わず意味を理解しやすい名称であること。



2. アーカイブ拠点施設の基本理念及び主要事業等（基本構想より抜粋）

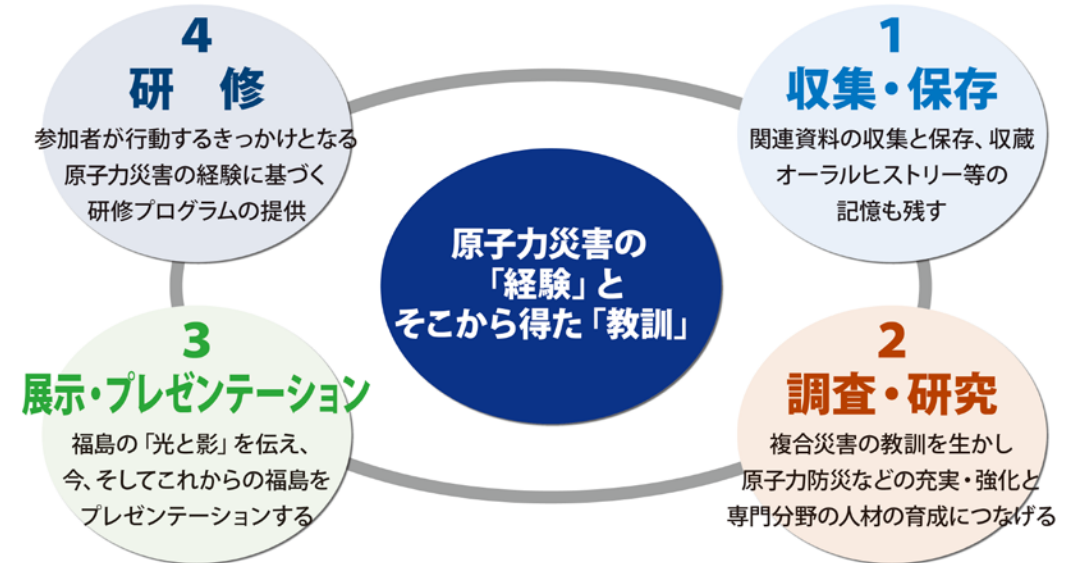
基本理念

原子力災害と復興の記録や教訓の
未来への継承・世界との共有

福島にしかない原子力災害の
経験や教訓を生かす
防災・減災

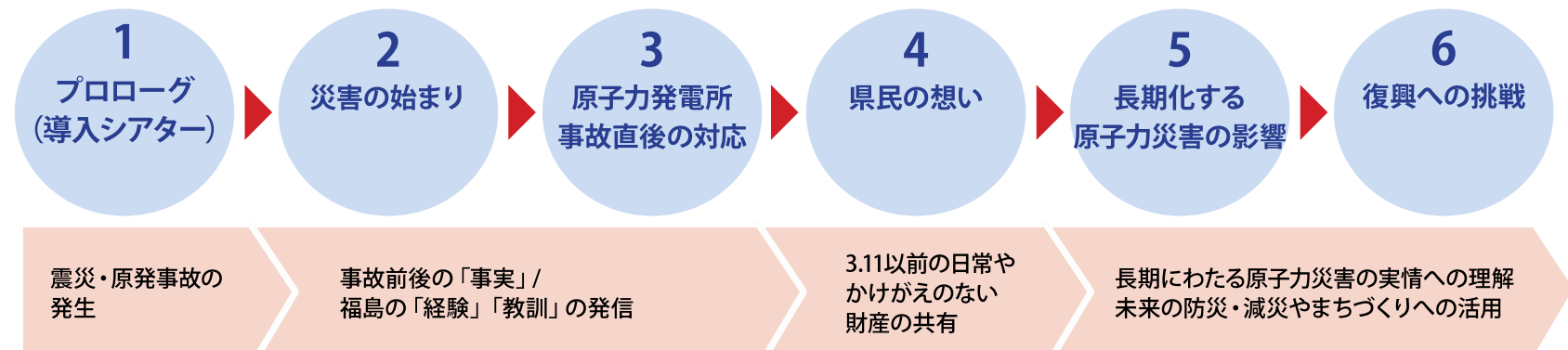
福島に心を寄せる人々や団体と連携し、
地域コミュニティや文化・伝統の再生、
復興を担う人材の育成等による
復興の加速化への寄与

基本理念に基づいた4事業の実施



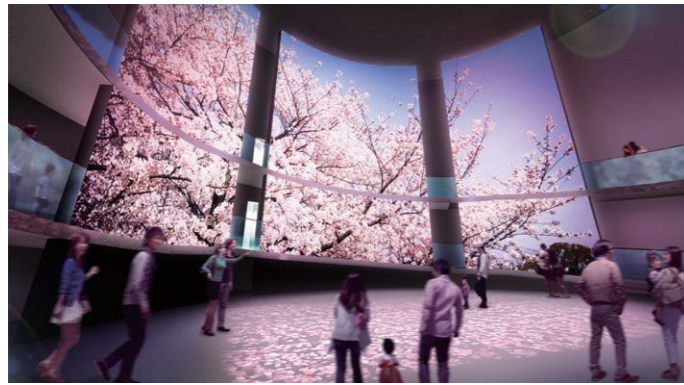
<展示ストーリー>

展示・プレゼンテーションエリアでは、震災前の地域の様子から震災の発生、そして復興に向けて取り組む姿などについて、蓄積された資料や語り部による生の声により、1から6の展示ストーリーに沿って伝えていきます。



3. 展示・プレゼンテーションエリアの展示構成（案）及び全体イメージ

1.プロローグ（導入シアター）

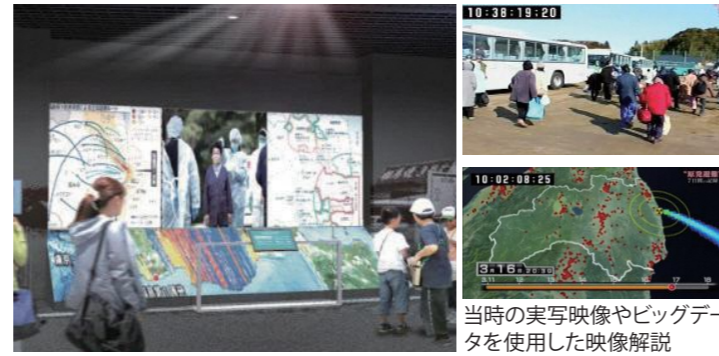


展示エリア全体のイントロダクションとして、震災前の地域の様子から、地震・津波・原子力発電所事故の発生、避難生活を経て、復興に向けて立ち上がる姿などを、床を含めた7面の大画面映像で表現。各展示ゾーンのガイダンスの役割を担う。

◆演出時スクリーンイメージ



3.原子力発電所事故直後の対応



錯綜する情報、転々とする避難生活。これまで経験したことのない原子力発電所事故発生直後の状況やその特殊性を、当時の実写映像と、ビッグデータによる解析映像により、避難の様子などに焦点を当て伝える。また、事故発生に対する海外の反応や、支援に対する感謝についても伝える。

4.県民の想い



平穏な日常が原子力発電所事故後にどのように変わってしまったのか。災害発生時の不安や恐れ、学校生活の変化、家族や地域との別れ、将来への不安など、様々な県民の想いを、証言や思い出の品などの展示を通して伝える。

5.長期化する原子力災害の影響

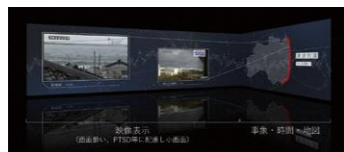


原子力災害が長期化する中で発生した様々な影響。その中から、除染、風評、長期避難、健康不安の4つに焦点を当て、どのように対応してきたのか、タッチパネル解説や資料を通して学んでもらう。

2.災害の始まり



地域の生活が、地震・津波・原子力発電所事故により、どのように変わってしまったのか。当時の実写映像や被災した実物資料の展示により、地震・津波の被害の大きさを伝え、原子力発電所の模型や解説映像等を通して、発電所内で起きていた事象や当時の行政対応について解説する。



3面マルチ映像を使った事故当時の時系列映像解説



模型と映像を使って事故当時の様子を解説

6.復興への挑戦



逆境を乗り越え、復興に挑戦する福島県の姿を紹介する。廃炉作業の進捗、福島イノベーション・コースト構想などの行政の取組、そして県民が取り組む復興へのチャレンジに関する情報を発信することにより、県内の他施設、地域への回遊を促す。また、まちづくり体験等により、来館者が福島の未来について考えるきっかけをつくる。

